

手柄山温室植物園だより

シリーズ：姫路市に見られる身近な植物

14. オミナエシ（オミナエシ科オミナエシ属）

Patrinia scabiosaefolia Fisch.

2014年10月

丘陵地やため池の土手など、日当たりのよい草地に生育する多年草です。茎は直立し高さ60～100cmで、下部に多少粗い毛があります。地下茎は這い、これにより株は増えます。葉は対生で頭大羽状に深裂します。花は8～10月に多数の黄色の小花を集散花序の上部にほぼ平らにつけます。花冠は5裂し、径3～4mmで、雄ずいは4本、花柱は1個で分裂しません。果実は長楕円形で長さ3～4mm、やや扁平で翼はありません。分布は北海道、本州、四国、九州、朝鮮、中国、台湾、千島、シベリア東部で、播磨地域は丘陵地の草原に見られ、当地域の特徴として山間部のため池土手によく見られます。秋の七草のひとつで古くから親しまれ、女郎花と書き、万葉集では14首もあります。類似種で同様の環境に生育するオトコエシ（*Patrinia villosa* (Thunb.) Juss.）があり、混生することもあります。長い走出枝を出し、株を増やします。オミナエシ同様、集散花序に多数の白花をつけます。果実に翼があるのがオミナエシと異なります。また、葉はより毛が多いのも違いの一つです。



オミナエシ



オミナエシの花の拡大



オトコエシ



両種の混生